

ダイバーシティ & インクルージョンの
理念を伝えるために

池谷航介（教育推進機構）



もくじ

1. 授業の目的

2. 授業へのアクセシビリティを向上させる手立て

3. おわりに



1. 授業の目的

障害を社会モデルでとらえること

法律に定められた「義務」？
多様な人には「優しく」？

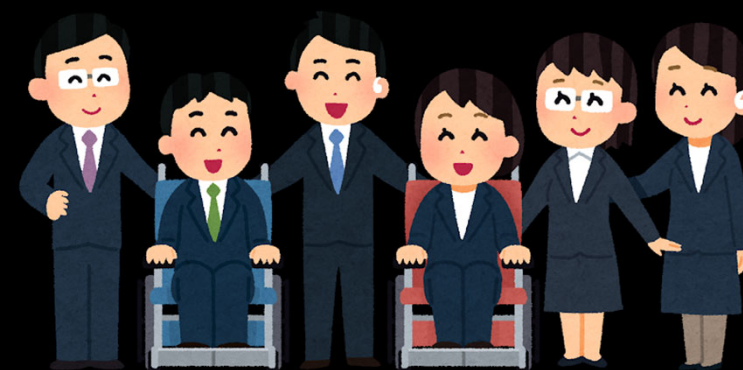




多様性を包摂する社会

多様なことは**当たり前**であり、それ自体が**価値**である

**誰かが参加機会を失うことは、
全員が（自分が）価値を失うこと**



誰かのためではなく、自分のこととして



私は、初回授業を受けるまでは、それまで自分が受けてきた道德のような話が展開されるのだだろうと思っており、正直単位がもらえれば何でもいいと思っていた。しかし、**道德心や倫理観の問題にするのではなく、あくまで論理的にどのように理解するかが講義として展開され、変な嫌悪感なく話を聞くことができた。**そして、これらの話が**実際の社会の話などと結びつけられ**ことで、よりイメージをはっきりさせながら理解し、自分のこととして近づけながら考えることができ、非常にためになった。


(法学部2)



本質的な理解

今まで、バリアやアクセシビリティについて、学んだり考えることはあっても、ここまで本質を突き詰めていくことはなかったのが興味深かったです。特に私は、「障害やバリアに気づけない人が悪人というわけではなく、ただそのような人が身近にいなかったただけである」という言葉が強く印象に残っています。「ああ、確かにそうだな」と腑に落ちました。バリアについて「思いやりの心を持ちなさい」だとか「助け合いなさい」と、「善いこと＝正義」みたいに語られることが多いが、この授業は「善いか悪いか」がポイントではなく、「アクセシビリティとは」、「多様性とは」と、本質を考えさせてくれました。

(工学部2)



2. 授業へのアクセシビリティを 向上させる手立て

誰かのためにではなく、
全員の（自分の）利益のために

フォント・スライド構成・完全字幕付与

障がいとは・・・（HGS行書体）

障がいとは・・・（MS明朝）

障がいとは・・・（UDデジタル教科書体）

黒字に白文字のスライドが斬新かつ、とても見やすいと思いました。スライドと言えは白地に黒文字だと思っていたのですが、固定観念をなくすことでより使いやすく、見やすく、聞こえやすくなるものは、きっとたくさんあるのだろうと身をもって感じました。

（文学部2）

アクセシビリティ

たとえば

1



2



3



スライドの右上の進行状況
を表す円は、**聞き方の目安**と
なって非常に良かった。
(工学部2)

「この写真を見てください」

OR

「1番の写真を見てください」

3. おわりに

岡山大学でこの授業を行うことの意義>>

「多様性を包摂する社会」の実現は、
全ての人たちの理解なくしてはありえない。

影響力のある立場に進んでいく者が少なくない

岡大生への期待

大学が変われば
日本が変わる



2018年 岡山大学バス停前 2022年

インクルーシブな風土を醸成し、
全員が担い手として機能する大学へ